



生涯学習センターだより

2018. 12. 26(水) 12月号 (2018年度第5号: 通巻22号)

発行: 秋田県生涯学習センター

TEL 018-865-1171

研修実施 レポート

公民館職員専門研修② (兼)家庭教育支援チーム・リーダー養成講座④

去る11月30日、官民が連携して家庭教育支援が行われている事例に学び、望ましい「連携・協働」の在り方について学ぶために、今回は「公民館等職員専門研修」と「家庭教育支援チーム・リーダー養成講座」を合同開催することになりました。連携・協働する各主体が一堂に会して学ぶことにより、この研修を通して各市町村においてこれまでなかった活動(連携・協働の芽)が生まれるのではないかと考えたからです。

午前の部では、はじめに生涯学習センターの職員から、これまで開催した各研修のポイントや、受講者の地域での活動を説明しました。続く実践紹介は、青森県の鰯ヶ沢町家庭教育支援チーム(鰯ヶ沢町子育てサポートセンター、通称「サポセン」)サポーター代表の渋谷貴子さんと、サポーターの岩谷道代さんからお話をいただきました。サポセンはPTAの有志で立ち上げた子育て支援グループを母体とし、国・県の事業受託をきっかけに平成16年度から活動を開始しています。当初から鰯ヶ沢町中央公民館を拠点としており、楽しく、地域ぐるみの子育てをモットーに、

【子育ての相談】【学習会の開催】【情報発信(情報誌「ほっとタイム」の発行)】【サークルやグループの支援】という4つの柱で活動を続けています。活動を行う中で、公民館や教育委員会等の行政機関をはじめ、町の様々な機関や団体と連携を深めており、サポセンのメンバーも町内の活動や会議に積極的に加わることで情報収集に役立てているそうです。中央公民館だけでなく町内の各公民館と事業を通じて連携し、サポセンは企画や実行、公民館は事務手続きなど、役割分担をしながら効果的に活動しているという話が印象に残りました。郷土料理教室や巨大紙相撲大会など、鰯ヶ沢町ならではの特色を生かしたユニークな活動もあり、受講者のアンケートでは「自分たちの活動でも参考にしたい」という意見が多く見られました。支援活動をスムーズに進めるためには、拠点である公民館の理解と協力がポイントであることを強調され、今後の課題としては、家庭教育支援の多岐にわたるニーズを適切に捉えることを挙げていました。

午後は「家庭教育支援チーム部会」と「公民館部会」に分かれ、協議を進めました。家庭教育支援チーム部会は公民館を拠点にすることによる利点や今後の連携の可能性について、公民館部会は支援チームの立ち上げ時のサポートをどうするかや、情報提供の手法などが話題になりました。後半では両部会が合流してさらに話し合い、身近な施設(町内会館など)の活用や、支援チームと公民館の役割分担など具体的な内容にも話が及びました。合同研修にしてじっくり話し合ったことで、お互いの考え方が分かって参考になったという意見や、課題が明確になったという意見があり、有意義な研修機会になりました。



事例発表(鰯ヶ沢町)の様子

1、2月の講座等開催予定

会場: 記載がない講座は「秋田県生涯学習センター」
(掲載した4つの講座はすべて無料です)

●官・民・学連携講座(無料)

【あきたチャレンジゼミ】

1月12日(土) [10:00 ~ 11:30]

あきぎん長活き学校

秋田の佃煮の魅力を伝えたい
～伝統の継承と打破、
老舗佃煮屋4代目の挑戦～

[講師] 佐藤食品株式会社
佐藤賢一 氏

●特別講座(無料)

【①障害者理解】

[13:30 ~ 15:00]

2月9日(土) (仮題)「障害者を取り巻く
現状を思う」

[講師] 秋田虹の会
理事長 桜田星宏 氏

【②地域資源】

[13:30 ~ 15:40]

2月16日(土) (仮題)「秋田地域における
シェールオイルの可能性」

[講師] 石油資源開発株式会社
職員

※会場は、由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ



県教育委員会が主催し、県公民館連合会、県社会教育委員連絡協議会、県社会教育主事連絡協議会、県生涯学習奨励員協議会の4つの団体が共催して実施する「生涯学習・社会教育研究大会」を、行動人交流集会と兼ねて実施するようになって、今年で5年目を迎えました。毎回、時宜にかなったテーマを設定し、市町村関係職員や社会教育関係団体等の多くの皆様から御参加いただき継続してきたこの大会。今回は、昨年の社会教育法の改正を受けて、いわゆる「連携・協働」に向けた社会教育行政の果たすべき役割の重要性が増大しているという現在の社会情勢に鑑み、『地域の教育資源の再発見』をテーマに基調講演、交流タイム、事例研究の構成で、去る11月6日(火)に当センターで実施しました。参加者は青森県、岩手県、新潟県からの9名を含む総勢171名でした。以下に、その内容を紹介いたします。

【基調講演】

基調講演では、文教大学人間科学部の金藤ふゆ子教授から「学校・家庭・地域の連携と地域の教育資源の再発見」と題してお話をいただきました。はじめに、学校・家庭・地域の協働により、地域全体で子どもを育む仕組みづくりが進められてきた経緯を、法的な根拠や社会的背景、調査による地域の実態データをもとに分かりやすく説明していただきました。

後半は沖縄県における放課後子ども教室の先進事例や、諸外国の取組について紹介がありました。諸外国では、放課後支援が移民や貧困など格差対策の役割を果たしているというお話は新しい知見でした。さらに、調査結果をもとに、放課後支援の取組が、子どもはもちろん教職員の意識変容にも優れた効果があるというデータを示していただき、その有用性に改めて納得できました。

結びに、地域の資源、特に人的な資源の重要性について説明され、地域を「志のある人間の集まり」と位置付け、その中核である「社会教育関係者」に大きな期待を寄せていることを強調されていました。



金藤教授による基調講演



交流タイムの様子

【交流タイム】

交流タイムでは、展示ブースでの活動紹介に加え、ステージ発表(オカリナ演奏と自作ビデオ紹介)や「しゃべり場」の設定による緩やかな話題づくりの仕掛けを考え、参加者の交流を促しました。

展示では、初出展となる「石ころアート」と男鹿市家庭教育支援チームの「お茶っこサロン」をはじめ、毎年恒例の団体による見応えある展示も好評で、話が盛り上がり楽しい時間になりました。

昼食後のわずかな時間ではありましたが、いろいろな立場で活動している方々の気軽な情報交換の時間になりました。



会場の参加者を魅了した事例発表者

【事例研究・講評】

事例研究では、八峰町の読み聞かせグループ、おはなしの会「かもめ」の山本百合子代表、男鹿市で家族ぐるみで「うみうし」を研究し、視聴覚教材を制作している天野厚助氏、当センターの菊地智社会教育主事からの発表をもとに、地域の教育資源について学びを深めました。

山本代表からは読み聞かせや、移動図書館を使った新しい活動について紹介があり、後半は自作の紙芝居を実演していただきました。迫力ある語りに参加者も驚きの様子でした。

天野氏の発表では、全国自作視聴覚教材コンクールにも出品した「男鹿のうみうしⅢ」を上映し、研究を支えてくれたのは男鹿の美しい自然と、家族、そして地域の方々であり、そこが秋田のよさであると話されました。また、伝え方の工夫についても強調され、美しい映像と優しい語り口に参加者も魅了されていました。

菊地社会教育主事は、あきたスマートカレッジの「地域の魅力発信」講座の事例から、地域の教育資源を生かす意義、地元の人たちと一緒に作り上げる講座や地域課題に対応した講座づくりの工夫、そこから新しい地域の教育資源に結びつける大切さを説明しました。

最後に金藤教授から、「地域には多様な資源が既にあり、人のつながりから新しいものが生まれる」ため、「地域の一人一人が当事者意識をもち、地域に貢献していくことが必要」であり、「本日参加している社会教育関係者には、地域の人々のつなぎ役となることを期待したい」と会をまとめていただきました。

参加者の皆さんからいただいたアンケートには、「皆さん目指すところが一緒に話しやすく、話題を共有できることが喜びとなり、楽しい時間でした。」「年々内容が充実してきている感じです。皆さんの意識も高く、行動人として成長しているのですね。」「秋田には多くの教育資源があり、そこで生き生きと活動している方々がいる。出会えて良かった!」「貴重な学習機会であるこの大会を今後も継続してほしい。」というような声が多く寄せられました。

※次号は2月末の発行を予定しています。